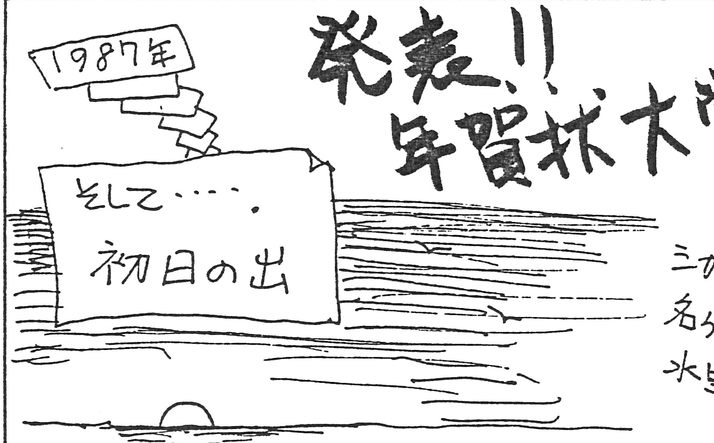
No. 52
月刊
RIPPLE
1987. 1. 15
【発行】　¥500
リプル・セイリングクラブ
〒238-03
神奈川県横須賀市長井　2-11-1
☎ 0468-57-1711

発表!! 年賀状大賞!!


1987年
そして・・・・
初日の出

レポート　塩野谷由幸

年越で吹き荒れる大西の為，創業以来つづけてきた初日の出クルージングは，スタッフの努力むなしく中止となった。年初めのがこれではと，いささか冴えない気分で年越そばを食べ，ねむりにつく私であった。しかし，リプルは健在だった。午前6時10分，まだ暗い新年の，しかしいつもの道を走っていくと，すでにメンバーは集まっていた。昨日，中止が決定した際，せめて陸からでもというクラブ員の希望により，初日の出ランドクルージングを施行することになっていた。

おめでとうのことばも早々に我々は一路剣崎燈台に向かった。途中でみた，三浦海岸のおんべ焼きは８７年年明けの新たな気持ちを高揚させるに充分の光景であった。今年はがんばるゾとクラブ員の顔を思い浮かべながら，静かにハンドルを握る私のうしろで，すでにアパートででき上がってる大木氏がなにやら，かんやら，話していたのも，リプル健在のあかしと思った。

剣崎への道のり，普段は静まりかえっているこのあたりも，この時とばかりに振わっていた。我々もその渦中に身をまかせ，燈台の広場で日の出を待つことにした。

剣崎から見おろす東京湾には，勇敢にも３バイのクルーザーがみえた。荒れた海面の波間に見えかくれするクルーザーを見ていると，リプルも海で初日の出を拝みたかったという思いがまたこずてくる。そんな私の心中とは裏腹に，あたりは振わってい海とは対象的に寒さもゆるやいでいる天候の中，ミニスカートのギャルが群れなしている光景が目にとまり，私の心も自然と上向きになっていったのはいうまでもない。

そうこうしているうちに東の空がオレンジ色に輝いた。きれいにたなびく雲の上に，みごとな初日が顔を出した。８７年の年明けである。静寂を切ってはく手がわいた。メンバーそれぞれ思いを込めて，じっと見つめた時間であった。

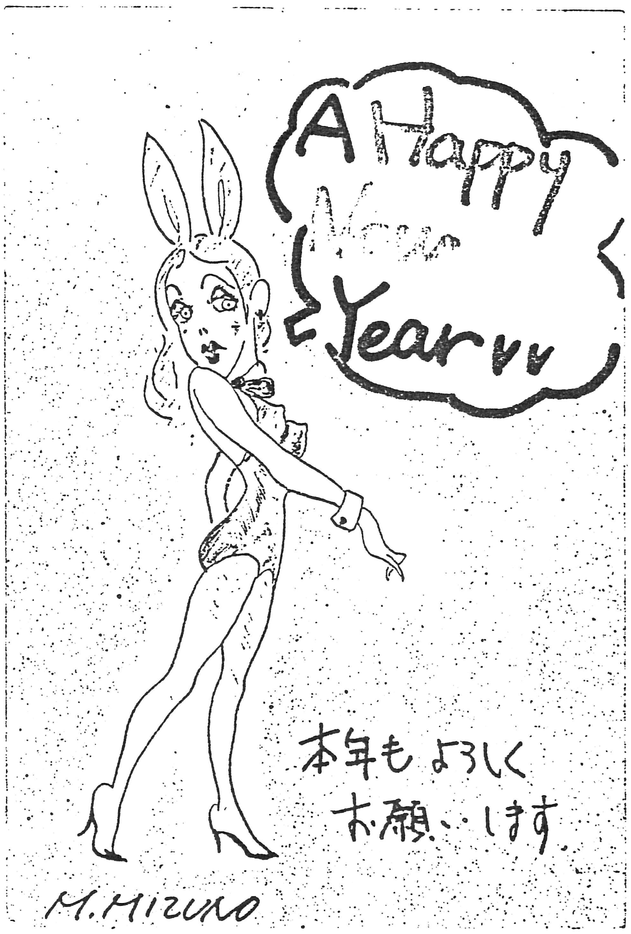
それから恒例の記念写真を撮る。今年は，長谷川夫婦，杉ちゃん，ひろみちゃん，とペアの写真もとっておこう。あっ，大丈夫です大木さん！あなたの一人歩く後ろ姿もちゃんと撮ってありますからね。

初日の出を拝んだ後，海南神社に向かった。三崎漁港で，片桐一木ペアに出合う。さっそく合流し，参拝。おかれたサイ銭箱全てに小銭をなげ込んだのは私だけだったのだろうか。

初詣でも終え，恒例の箱づめかずのこと玉子焼きをクラブハウスで食べることにしてリプルへ向かう。その前に，今年もお世話になる長浜の海を見に行くと，浜で目崎，ともちゃんペアが待っていた。

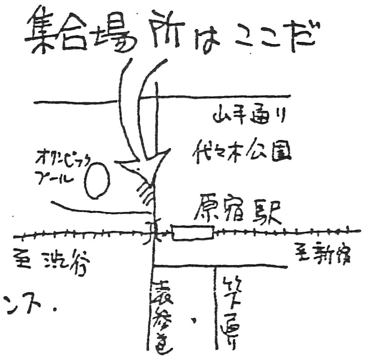
道すがら，ふくれ上がったメンバー１０数名，元旦からこの様に集まってきてくれてありがとうという思いを込めて新年のかんぱいをし，思い思いにごろ寝をはじめたのもいつもとまったく変わらない。本年も，益々楽しいリプルになる様，よろしくお願い致します。

ミカーラⅣRの名クルー水野君．カラーでお見せできなくてザンネン
注)もちろん手がきです．



'87 スキーツアーのお知らせ

ザーンス．



日本列島大寒波にすっぽり，ゲレンデは雪々そして雪，スキー愛好家にはうれしいスキー便りがいっぱい。すでにスキーに行った人もそしてこれからの人もリプルスキーツアーは今年も参加者大募集中！！

日時：１９８７年3月6日夜より8日迄
場所：菅平高原スキー場
宿泊：菅平サンホテル　０２６８－７４－２３６０
集合：原宿　午後１１：３０集合（図参照）
費用：１名様　　２３０００円
募集人員：３５名

申し込みはリプル迄。　０４６８－５７－１７１１

今年も昨年に続いてビデオを撮ります。これがまた後日何かの時に見ると実におもしろい！！もちろん当日夜も１ぱい飲りながら話は盛りあがる事，確実です。行き帰りのバスは超デラックスバスでゆったりラクチン！！スキーのない人はレンタルスキーもありますので初めての人でもＯＫ。クラブ員以外の人も参加ＯＫですので仲間をさそってさあ行こうリプルスキーツアー。

あー　きょ年のことなんて書きたくねーナ　の巻

レポート　高槻和宏

１２月２０日（土曜日）。とにかく寒い日であった。

僕はリブルニュースに載っていた地図をたよりにパーティー会場へと向かった。

歩けども，歩けども，イエスタディなどと言う店が見えてこない。

商店街はとっくにとぎれ，師走の町の喧騒もすでに無く，車もまばらな大通りには，ビルの谷間を吹き抜ける木枯らしが舞っていた。

僕は大都会のまっただ中で，ジャングルのようなビルの迷路に，迷い込んでしまったのだ。

あてども無く歩いた。足が棒になるまで歩いた。

と，大袈裟に悩んでいる間も無く，パーティー会場に着き，恒例のリブルクリスマスパーティーは，始まったのだ。

何がクリスマスだ。日本人は亡年会だ。まっ，どっちでもいいけど，酒飲もう。るっせー，俺が肝臓悪いの知ってんだろー。

などと，いろんなこと言ったりして，それでも単一民族国家としての誇りにかけて，声を揃えてメリークリスマスと言ってしまうのである，実際。

[illegible]ークリスマスと言ってはみても，いったいどこがメリーなの[illegible]。サンタはなぜにクロスなのか。

深い謎をのこしたまま，メンバーはビデオを見ることにしたのだ。

今年，つまり今からしたら，去年てことになるわけだけど，リブルにとって，第一のニュースと言えば，やはり春に放映された１２チャンネルの“ON　AND　OFF”じゃなかろーか。

秋にはみごとに結婚した長谷川君が主役となって，なごやかなフリートレースの模様を撮影したものだが，当日のコンデションも最高なものだったし，大木，高橋らの激沈シーンなど見所にも事かかない。

赫本氏の激しいラダーリングアタックも見逃せないのだ。

海と空と風と，そして楽しい仲間達。

リブルカップの一面を見事にとらえている秀作と言える。

プロが作った素晴らしい作品に，感動の色濃い参加者を前に続けて登場するのはホームビデオにて撮影のリブルスキーツアー記録映画が上映された。

誰が撮ったか知らないが，日本映画史上に残る力作であった。

たて続けの上映に，会場はさながらカンヌ映画際なみのドヨメキとカンドウの波がゲップをたてていた。

そこで，今年度のリブルカップ総合優勝の長谷川（夫）選手，ならびに，最多出艇者，杉田会員，両名に質素な賞状が送られ，リブル代表の塩野谷氏より表彰された。

得意満面，賞品は無いの？と言う２人に，会場は割れんばかりの拍手の渦。

拍手するだけならタダだもんね，の下心はサンタのおじさんには見え見えだったのだ。

そこには人一倍大きな拍手で祝福する塩野谷氏の姿があった。

このころには，既に用意されていた豪華な料理の数々もあらかた食いつくしてあった。

テーブルには無残にも丸焼きになった七面鳥の死骸がバラバラにされて３匹もころがっておるではないか。

こう考えるとパーティーと言うのは残酷な儀式ですなあ。

なによりも西洋人は七面鳥と浣腸が韻を踏んでいることに気がついていないと思う。恥を知れよ。

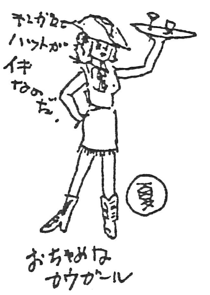
と言いつつも残った七面鳥は箱に入れて持ち帰り，さらには風紀委員長長崎氏の指示により，残ったウイスキーもコッソリと持ち帰る事に成功したのだった。

おっと，このパーティー会場“イエスタディ目黒店”はリブルの会員である原川氏の紹介なのでこのリブルニュース読まれたらバレちゃうなー。

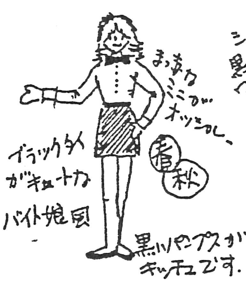
追伸：目黒イエスタディは料理，店の雰囲気，接客とも申し分ありません。

願わくば，ウエイトレスのユニホームを替えた方がいいと思います。

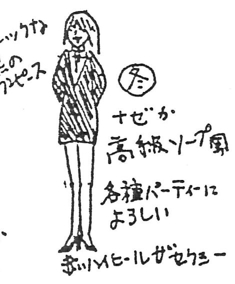
（高槻案その１）


とんがったハットがイキなのだ。
夏
おちゃめなカウガール

（高槻案その２）


まっ赤なミニがオッシャレ。
ブラックタイがキュートなバイト娘風
春
秋
黒いパンプスがキッチュです。

（高槻案その３）


シックな黒のワンピース
冬
なぜか高級ソープ風
各種パーティーによろしい
赤いハイヒールがセクシー

世界のヨットクラブめぐり　第6話

ボクのヨット王国の巻

１９８１年１２月１３日。ゴーゴーとうなる風も，しぶき飛ぶ波も，左右に立ち塞がる巨大な岩壁に遮られて，闇に包まれた湾内には静寂があった。

所々に家々の灯がまたたいていた。

日本を出て３２日。ひさびさにかぐ陸の匂い。

陸の匂いはさまざまだ。ここシドニーは風呂屋の脱衣所の匂いがした。それは文明社会の匂いなのかもしれない。

本来ならばあまり感激できる匂いではないが，長い航海にうんざりしていた今の僕にはまんざら悪くない。

５４フィートの巨体もやはり長い航海を終えた安心感をみなぎらせて広い湾内をしずしずと進む。

カランコロんと鐘の音が，真っ暗な航路を導いてくれる。浮標の上に付いている鐘が波に揺られて鳴るようになっているのだ。

おそらくその昔，幾多の帆船達も，植民者の夢や絶望を乗せてこの地を訪れたのだろう。

この大きな岩壁を抜けて，そしてあるいは，この鐘の音を聞きながら，彼らはこの大陸に，自らの新しい第一歩を踏み出したのだ。

広い湾内を進むうちに，夜は白々と明けていた。

緑の木々の合間には，赤や青の三角屋根がそこここに見え，辺には無数のヨットやボート達がもやわれてあった。

☆　☆　☆

さてみなさん，ごぶさたしています。

今頃はおそらくオーストラリアは，いやアメリカやヨーロッパも，アメリカズカップの話題で持ちきりだと思います。

そこで“世界のヨットクラブめぐり”今月はオーストラリアはロイヤルパースヤットクラブを，と言いたいところだけど，行ったこと無いもんね，ワシ。

で，代わりに，と言っちゃなんだけど，オーストラリアじゃ最も権威があると言われるクルージングヨットクラブオブオーストラリア（Ｃ．Ｙ．Ｃ．Ａ）を御紹介しよう。

そもそもここシドニーは，なにしろヨットの盛んな所で，おそらく他にやることが無いにちがいない。

イメージとして晴見や横浜，川崎，浦安，鶴見，品川，横須賀ｅｔｃのそこここに大きなヨットハーバーがいくつもあって，東京湾の中をヨットやウインドサーフィンが走りまくっていると思っていただければよろしい。

その海岸線にはコンビナートならぬ緑の木々，公園の芝生がつづき，サンサンと輝く太陽に照らされて，たとえば桂離宮がえんえんとつづいていると思っていただければよろしい。

だいたいこれじゃ貿易はいったどこでやっているのか。

商業港としての威厳は，この際どうなるのか？

と，いささか余計な心配をしたくなるくらいに湾内はヨット，ボートで埋まっている。ここはヨット天国なのだ。

と言いつつも，ハエがすんごく多いいなと言う感じを受けながら，このつづきは来月のココロだー！！　（つづく）